

平成 29 年度 自己評価計画書に対する最終評価報告書

石川県立金沢辰巳丘高等学校

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 達成度判断基準 | 集計結果 | 分析及び来年度への展望《改善策等》 |
|--|---|-------------------|---|-----------------------------------|--|
| 1 学習意欲を向上させ、個に応じた進路実現を確かなものとする。 ICT等を活用し、魅力ある授業の展開に努め、本校の学力スタンダードを実践する。 | ① 「授業参観週間」を学期に1回設け、複数回の参観を行う。また、地域交流を進め中学校の授業参観にも積極的に参加し、ICTの有効活用など「相互のスキルアップ」をはかり、授業改善を促進する。 | 教務課 各教科 | 他の教員の授業を参観したり地域交流における中学校の授業を参観したりした回数が年間7回以上の教員の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である | 2月の教職員アンケートで 7回以上 80.0% | 今年度は校内の授業参観週間の設定だけでなく、近隣中学校にお願いして授業を参観させてもらったため、1月の教職員アンケートでは7回以上の参観が57.2%で昨年(51.3%)を上回った。さらに3学期、3人グループを結成して互いの授業を見合う互見授業の取組も行い、教務課によるアンケートでは80%に達した。次年度は授業参観週間を生徒にも伝え、気軽に他の教員の授業を参観できる雰囲気を作りたい。 |
| | ② 授業参観や校外での研修を通して、タブレット等のICT機器を活用した、より効率的で効果的な授業を実践する。 | 教務課 情報課 各教科 | 本校の教員はICT機器を活用して、わかりやすく興味の湧く授業を実践していると答える生徒の割合が A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である | 1月末の生徒アンケートで 75.8% | 教科によってパソコンとプロジェクトを用い、毎時間活用している授業もあるがあまり活用されていない教科もある。ICT活用の研究として先進校視察、研究授業を行っており、タブレットの活用も見られ、今後普及していくことが望まれる。タブレットについては新たに理科と数学で12月に配布され、研修を行った。校内研修会等を定期的に持ち、わかりやすく魅力のある授業づくりを目指したい。 |
| | ③ 「言語活動の充実」という共通のテーマで生徒の学力向上につながるより効果的な言語活動を学校全体で行う。 | 教務課 各教科 | 言語活動の充実を常に意識して、授業や試験問題の作成に取り組んでいる教員の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である | 1月末の教職員アンケートで 62.0% | 昨年の基準ではA評価であるが、評価の基準を「意識して取り組む」から「常に意識して取り組む」割合に変更したため、低い評価となった。大学教授を招いてのアクティブラーニング校内研修を行うなど、職員は生徒同士での話し合いや自身の意見を発表する場面を設ける授業づくりに積極的に取り組んでいる。次年度はさらに奨励し、互見授業にも絡めて取り組みたい。 |
| | ④ 家庭での学習習慣の定着をねらいとする効果的な課題を与え、家庭学習時間を増加させる。 | 教務課 各学年 各教科 | 課題の提出率が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である | 1月末の生徒アンケートで 79.4% | 昨年(84.3%)よりも数字は低いが、各学年は未提出者に対し放課後指導するなど提出させる努力をしていた。アンケートでは80%を下回り、課題が多いと感じる生徒も多かった。課題の量は多すぎず、内容も適度な負荷が与えられるよう各教科で精査し、取り組みやすいものを提示していかなければならない。 |
| | ⑤ キャリア教育の充実とともに、個人面談を継続的に行い、目標を明確化させ、有意義な高校生活を送るよう支援を行う。 | 進路指導課 各学年 | 本校でのキャリア教育が意義あるものとなっていると答える生徒の割合が A 90%以上である B 85%以上である C 80%以上である D 80%未満である | 1月末の生徒アンケートで 80.5% | 本校のキャリア教育は進路指導課、学年が中心となりPTA、卒業生など学校外の人材も巻き込みながら大々的に行っている。しかし、はっきりした進路目標を立てている生徒は例年より少ない。生徒一人ひとりが自らの進路についてじっくりと考えるような時間や面談の時間の確保が必要である。 |
| 学校関係者評価委員会の評価 | ・授業でのスマートフォン利用は現在難しいと聞いていたが、果敢にチャレンジしたようだ。若い先生方のエネルギーはすばらしいと思う。スマホ一個で国際交流ができる時代であり、さらに研究して欲しい。 ・授業参観は教室に他の教員が入りやすい環境をつくるのが大事である。そうなれば、授業者も授業の見て欲しいポイントを言えるようになるだろう。 ・生徒アンケートで課題の提出率の割に学習時間が少ない。改善すべきである。 | | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策 | 平成30年度はすべての教員が研究授業または公開授業を行い、授業改善に努めるとともに、授業参観をしやすい雰囲気をつくり、授業力向上に努める。また、中学校の授業参観や他県の先進校視察、研究会参加も奨励し、ICT活用やアクティブラーニングの研究を継続して行う。生徒の学習に関しては3年間を見通した進路指導シラバスを作成し、適切な時期に適切な行事や集会などを計画し、将来を見据えて学習する生徒を育成する。休み時間や放課後、自主的に学習する生徒は増えているが、一方で、与えられた物しか取り組んでいない現状があるので、週末課題、家庭学習の意義を認識させ、取り組ませたい。 | | | | |

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 達成度判断基準 | 集計結果 | 分析及び来年度への展望《改善策等》 |
|---|---|---------------------|--|-----------------------------|--|
| <p>2 学校の魅力を更に磨き、生徒・保護者・地域から信頼される、開かれた学校づくりに努める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>校種間交流や地域と連携した取り組みを積極的に行い、広報活動を充実させる。</p> </div> | ① 地域及び小中学校等との交流活動や各種の情報紙等による広報活動を通して、本校の教育活動への理解と協力を促進する。 | 総務課 各コース | <p>各種の交流活動が活発であり、広報活動を通して学校の取り組みがよくわかると答える保護者の割合が</p> <p><input checked="" type="radio"/> A 90%以上である</p> <p><input type="radio"/> B 80%以上である</p> <p><input type="radio"/> C 70%以上である</p> <p><input type="radio"/> D 70%未満である</p> | 12月末の保護者アンケートで 92.6% | メール配信やホームページの充実によって、今年度も高い数値を得ることができた。しかし、生徒を通じての学校からの通知や配布物が確実に手元に届いているという保護者の割合は67%と低く、メールで配布物の情報提供を行って欲しいとの要望もあった。重要な連絡等については確実に保護者に届くよう生徒の指導を中心に工夫する必要がある。 |
| | ② ホームページの更新回数を増やし、地域や小中学校等との交流や学校行事など、本校の特色ある教育活動の様子を積極的に発信する。 | 総務課 各コース | <p>担当部所（課・室・学年・部活動）のホームページを通しての情報発信回数が5回以上であると答える教員の割合が</p> <p><input type="radio"/> A 80%以上である</p> <p><input type="radio"/> B 70%以上である</p> <p><input type="radio"/> C 60%以上である</p> <p><input checked="" type="radio"/> D 60%未満である</p> | 1月末の教員アンケートで 31.4% | 教育活動の後、頻繁にHPを更新する部署が増え、1月末までのHP更新回数は174回となった。しかし、更新頻度が不足している部署も少なくない。昨年よりも評価の基準を厳しくしたため低い評価となり、次年度は各部、係で月1回は更新する目標を立てるなどの取組を行っていききたい。 |
| | ③ 保護者の携帯電話のメール配信登録を頻繁にお願いして登録率を上げ、家庭との連携を深めて本校の教育活動の円滑化と活性化を図る。 | 総務課 各コース | <p>メールを登録している保護者の割合が</p> <p><input checked="" type="radio"/> A 90%以上である</p> <p><input type="radio"/> B 80%以上である</p> <p><input type="radio"/> C 75%以上である</p> <p><input type="radio"/> D 75%未満である</p> | 1月末現在で 93.3% | クラス担任を通じてのお願いばかりでなく、生徒集会や保護者が集まる行事等で担当からお願いし、各学年会も取組を行った。その結果、昨年の79.5%を大きく上回る登録率となった。緊急時や災害時に有効な手段でもあり、今後も100パーセントを目指して呼びかけていきたい。 |
| | ④ 地域に根ざした学校づくりを推進するため、生徒会が中心になり奉仕活動を展開し、地域の方々と積極的に関わる機会を増やす。 | 生徒課 各学年 | <p>生徒が近隣地域での各種ボランティア活動に参加する回数が</p> <p><input checked="" type="radio"/> A 50回以上である</p> <p><input type="radio"/> B 40回以上である</p> <p><input type="radio"/> C 30回以上である</p> <p><input type="radio"/> D 30回未満である</p> | 1月末現在で 51回 | 生徒会を中心に近隣の学校・施設を頻繁に訪問し、清掃・慰問・募金など各種ボランティア活動を積極的に行っており、今後も継続していきたい。今年度は大雪のため地域の除雪ボランティアも行った。除雪は放課後に部活動単位で行い、2月以降も雪が降れば当番制で活動する。 |
| | ⑤ 地域の方々や保護者とともに行う行事の中で生徒一人ひとりが充実感・達成感を得られるよう生徒自らが主体的に企画・運営する。 | 生徒課 各学年 | <p>行事終了後のアンケート調査で、充実感・達成感があったと答える生徒の割合が</p> <p><input checked="" type="radio"/> A 90%以上である</p> <p><input type="radio"/> B 80%以上である</p> <p><input type="radio"/> C 70%以上である</p> <p><input type="radio"/> D 70%未満である</p> | 行事ごとの生徒アンケートで 95.2% | 生徒自身が企画・運営することで辰巳祭を筆頭に生徒会行事に対してほとんどの生徒が積極的に参加し、充実感・達成感があったと回答している。また、保護者、卒業生、地域住民などの協力をいただいたこともその要因である。今後とも学校を媒介として多くの方々との交流を大切にして発展的に企画・運営を行っていききたい。 |
| | ⑥ 家庭との連携・協力を図りながら、服装、頭髪などの身だしなみ指導を全職員で行い、地域社会の一員であることを自覚した学校生活を送る。 | 生徒課 各学年 | <p>服装容儀について生徒心得を守っていると答える生徒の割合が</p> <p><input type="radio"/> A 95%以上である</p> <p><input checked="" type="radio"/> B 85%以上である</p> <p><input type="radio"/> C 80%以上である</p> <p><input type="radio"/> D 80%未満である</p> | 1月末の生徒アンケートで 93.4% | 学期の初めごとに全職員で登校指導、各定期試験時には一斉に頭髪服装検査を行っており、身なりに関してはほとんどの生徒が生徒心得を守っている。注意を受ける生徒が少なくなったので指導もしやすくなっている。次年度も気を緩めず、指導していききたい。 |
| | ⑦ 全教職員で協力し、時間の大切さを自覚させ、遅刻の減少を目指すことで規範意識の高揚に努める。 | 生徒課 各学年 | <p>年間を通して遅刻5回以上の生徒数が</p> <p><input type="radio"/> A 30人以下である</p> <p><input type="radio"/> B 35人以下である</p> <p><input checked="" type="radio"/> C 40人未満である</p> <p><input type="radio"/> D 40人以上である</p> | 1月末の集計で 36人 | 朝学習強化週間を設けることや、3回目の遅刻をした段階で、指導と保護者への協力依頼をするなどの取組で前半はその効果があった。しかし、今年度は冬場、天候が悪かったこともあり、急激に遅刻者が増加した。今後はさらに保護者と連携し、粘り強く指導していく。 |
| | ⑧ 個人面談を充実させ、生徒の様子を観察することによりいじめ等の問題には早期に生徒課・教育相談室・学年を中心に全教職員で連携し、解決にあたる。 | 生徒課 教育相談室 各学年 | <p>各課・学年と連携がとれて、いじめ等の問題を抱えた生徒の早期把握と対策がとれたと答える教員が、</p> <p><input checked="" type="radio"/> A 80%以上である</p> <p><input type="radio"/> B 70%以上である</p> <p><input type="radio"/> C 50%以上である</p> <p><input type="radio"/> D 50%未満である</p> | 1月末の教員アンケートで 88.9% | 生徒指導上の問題は生徒指導課、学年が中心となり、教育相談室や管理職と連携して対処することができた。特にいじめ問題に対しては対策チームを作り、外部機関とも連携した。しかし、多くの生徒が関係する問題については組織的な対応を心がけていてもホーム担任をはじめ学年団の負担は大きい。今後は生徒指導上の問題を未然に防ぐ予防的指導に力を入れたい。 |
| 学校関係者評価委員会の評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・地元公民館行事に似顔絵イベントに参加したり、除雪活動などでお年寄りをはじめ地域の人々はみんな喜んでいて、これからも地域の学校としてがんばって欲しい。 ・芸術コースはディズニーの合唱や卒業作品展などアピールするものは多くある。普通コースも中国語の勉強ができることは大きな特色であり、グローバルコースを中心にがんばって欲しい。 ・不登校等の問題は学校だけで抱えきれないのでソーシャルワーカーなどいろいろなネットワークを使うように。 | | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策 | <p>芸術コース（音楽・美術）が行う発表会、作品展などはホームページ、地域に掲示、パンフレット配布など広報活動をさらに強化し、新聞等の報道機関の力も借りてPRしていく。また、清掃や除雪など各種奉仕活動が地域に根ざし、感謝される活動になるよう方法・内容を検討する。次年度は普通コース、特にグローバルコースで行っている北陸大学との連携事業や生徒会が主体となる奉仕活動の広報にも力を入れる。また、中国語を本格的に学ぶことができる数少ない学校であることを魅力の一つとして周囲にアピールしていきたい。</p> <p>生徒指導上の問題など突発的事項に対しては、外部機関と連携しながら、一部の教員の過重負担にならないよう学校全体で組織的に対処していきたい。</p> | | | | |